

# 令和 5 年度 茨城県 英語教育改善プラン

## 目標 言語活動を通じた、互いの考えや気持ちなどを伝え合う力の育成

### 1. 現状

改善が進んだ点

- ①第5・6学年で授業中、50%以上の言語活動を行っている学校の割合 94.9% (昨年度比+0.6% 全国平均比+3.0%)
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定状況等

数字は%

	設定	公表	把握
本県	94.1	50.7	83.6
昨年度比	+6.4	+29.8	+18.7
全国平均比	+15.3	+2.3	+13.6

未だ改善が必要な点

- ①授業における、児童の英語による言語活動の割合の向上
- ②「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」を評価するパフォーマンステストの実施状況 98.5% (昨年度比-0.1% 全国平均比+1.3%)

### 2. 分析

- ①令和4年度学校教育指導方針において児童の言語活動を中心とした授業づくりについて動画制作・周知
  - ②令和4年度学校教育指導方針において全県への周知各種研修会において、設定等について説明・指導
- 【参考資料】小学校外国語教育スタートアップガイド

～学習到達目標 (CAN-DO リスト形式) 作成のメリット～

外国語学習をより効果的に行うためには、指導者と児童生徒が共通の目標 (ゴール) や学習内容、これまでの学習との関連を知り、共通して学習を進めていくことが大切です。そこで、CAN-DO リスト形式の学習到達目標の作成が有効な手立てとなります。

～学習到達目標 (CAN-DO リスト形式) の活用～

学習到達目標を作成するにあたり、「学習到達目標を作成して終わり」ということがよく見られます。学習到達目標の作成はゴールではありません。大切なことは、児童生徒や保護者と共有しながら、効果的に活用することで、外国語教育の充実を図ることです。そこで、次のような活用の仕方考えられます。

- 児童生徒と一緒に確認
- 年報指導計画に反映
- 保護者と共有

- ①授業者の言語活動への理解の不足や授業改善に向けた指導力の更なる向上
- ②「目標」と「指導」と「評価」の一体化の重要性やパフォーマンステストの実施方法の理解不足

### 3. 施策・事業

- ①言語活動を中心とした授業づくり
  - ・令和5年度学校教育指導方針における小学校外国語教育の重点として、動画制作・周知

小学校	外国語
努力事項	具現化のための取組
1 言語活動を中心とした授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の言語活動を中心とした授業づくりの工夫改善                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場面、状況を明確にした言語活動の授業実践                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動設定の「4ある」   <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 相手意識がある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 必然性がある</li> <li><input type="checkbox"/> 「ほんもの」である</li> <li><input type="checkbox"/> 楽しさや意義がある</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・指導改善に生かすための学習状況の把握 (中間指導)</li> <li>・言語活動の充実につながるデジタル教科書の活用</li> <li>【参考資料】<input type="checkbox"/>学習者用デジタル教科書実践事例集 <input type="checkbox"/>はじめての学習者用デジタル教科書</li> </ul> </li> </ul>
2 目標と指導と評価の一体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各領域の目標と指導と評価の一体化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習到達目標 (CAN-DOリスト) の設定と効果的な活用</li> <li>・単元終末の言語活動と単元計画の工夫改善、パフォーマンステストの計画的実施、アセスメント結果の活用</li> <li>★単元終末段階の児童の姿を基に、単元計画 (学習計画、評価計画) を作成</li> </ul> </li> </ul>
3 中学校への接続を意識した小中連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の学び (学習場面等) を中学校に伝える機会の設定</li> <li>・学区内の中学校と連携した言語活動を中心とした系統的な指導</li> </ul>

- ①先導的なオンライン研修実証研究事業への参加
  - 【対象】小学校英語専科を基本
  - 【参加人数】25名
- ①②県事業のモデル校での好事例の共有
  - ・県事業「学びのイノベーション推進事業」において授業改善を促進する。言語活動を中心とした授業づくりや単元計画 (パフォーマンステストでの見取り含む) を重点とする。
  - 【対象】県内小学校
  - 【内容】年3回の研究授業の実施 (第2回の公開授業の講師は調査官) 研究報告書を作成し、好事例を共有

# 令和 5 年度 茨城県 英語教育改善プラン

## 言語活動を通じた、発信力の育成

### 目標

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合 55.0%
- 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 90.0%

### 1. 現状

- ①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 76.8% (昨年度比+3.7% 全国平均比+2.3%)
- ②授業中、発話の50%以上を英語で行っている学校の割合 86.2% (昨年度比+5.0%、全国平均比+11.8%)
- ③小中連携の状況等 数字は%

	実施	情報交換	交流	カブチノの壁
本県	91.7	76.9	57.6	33.6
昨年度比	+268	+230	+300	+68
全国平均比	+162	+129	+113	+118

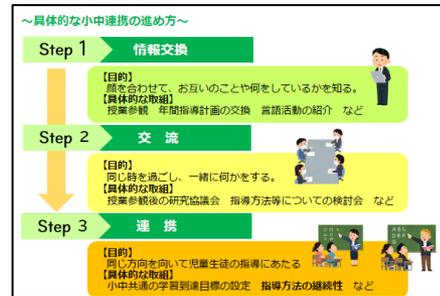
改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力  
CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合 52.4%(昨年度比-1.5%)  
※地域差、学校間差が大きい。
- ②英語担当教員の英語力  
CEFR B2レベル以上を取得している英語担当教師の割合 31.8% (昨年度比+3.6%)

### 2. 分析

- ①令和 4 年度学校教育指導方針において生徒の言語活動を中心とした授業づくりについて動画制作・周知
- ②各種研修会において、設定等について説明・指導  
【参考資料】小学校外国語教育スタートアップガイド



- ①授業づくりにおいて以下の視点が課題
  - ・言語活動
  - ・単元計画等の作成
  - ・ICTの効果的な活用
- ②英語担当教員の英語力についての要因
  - ・指導観に（授業中の英語使用の重要性）
  - ・資格受験機会

### 3. 施策・事業

- ①言語活動を中心とした授業づくり
  - ・令和 5 年度学校教育指導方針における中学校外国語教育の重点として、動画制作・周知

中学校	外国語
努力事項	具現化のための取組
1 言語活動を中心とした授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の言語活動を中心とした授業づくりの工夫改善                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場面、状況を明確にした言語活動の授業実践</li> <li>言語活動のポイント                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定</li> <li>・表現内容の適切さ、言語使用の正確さを指導 → 内容が先、使用する英語は後</li> </ul> </li> <li>・領域統合型の言語活動の充実とICTを効果的に活用した授業実践</li> <li>・言語活動の充実につながるデジタル教科書の活用</li> </ul> </li> <li>【参考資料】①学習者用デジタル教科書実践事例集 ②はじめての学習者用デジタル教科書</li> </ul>
2 目標と指導と評価の一体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各領域の目標と指導と評価の一体化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習到達目標（CAN-DOリスト）の設定と効果的な活用（生徒との共有、達成状況の把握）</li> <li>・単元終末の言語活動と単元計画の工夫改善、パフォーマンステストの計画的実施、アセスメント結果の活用</li> </ul> </li> <li>★単元終末段階の生徒の姿を基に、単元計画（学習計画、評価計画）を作成</li> </ul>
3 小学校の学びを活かす小中連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の学習内容の確実な理解と学びを活かす授業実践</li> <li>・学区内の小学校と連携した言語活動を中心とした系統的な指導</li> </ul>

- ①県事業のモデル校での好事例の共有
  - ・県事業「学びのイノベーション推進事業」において授業改善を促進する。言語活動を中心とした授業づくりと単元計画、ICTの効果的な活用を重点とする。  
【対象】県内中学校  
【内容】年3回の研究授業の実施（第2回の公開授業の講師は調査官）  
研究報告書を作成し、好事例を共有
- ②英語担当教員の英語力向上に向けての方策
  - ・県独自の検定受験料半額補助
  - ・ネイティブ英語教員の採用（ネイティブ等に特別免許状を付与） 18名採用（R5.4現在）

# 令和5年度 茨城県 英語教育改善プラン

## 「指導と評価の一体化」を通じた、発信力の更なる育成

### 目標

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合 50.0%
- スピーキングテスト・ライティングテストを両方実施した学校の割合 70.0%

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ①生徒の英語力（取得）  
CEFR A2レベル相当以上を取得している生徒の割合 35.4% (昨年度比+5.7% 全国平均比+5.2%)
- ②英語担当教員の英語力  
CEFR B2レベル相当以上を取得している英語担当教員の割合 81.1% (昨年度比+6.8% 全国平均比+8.8%)

#### 未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力（教員の評価）  
CEFR A2レベル相当以上と教員が判断する生徒の割合 10.7% (昨年度比+2.1% 全国平均比-7.7%)
- ②パフォーマンステスト実施状況  
スピーキングテスト・ライティングテストを両方実施した学校の割合 38.1% (昨年度比+5.7% 全国平均比-10.5%)

### 2. 分析

- ①言語活動中心の授業に向けた指導・評価の改善
- ①英検IBA等の実施による検定受験への動機づけ
- ①JET-ALTの増員 (R1 40人→R4 59人)
- ②検定料補助・意識向上研修等により検定受験者の増加
- ①②生徒の評価において以下の点が課題
  - ・CAN-DOリストの設定は100%だが活用が53.3%
  - ・パフォーマンステスト等、生徒の発信力を評価する機会の不足
  - ・受容技能（「聞くこと」「読むこと」と発信技能（「話すこと」「書くこと」）の指導のバランス

### 3. 施策・事業

- ①①② 4技能5領域を総合的に育成する授業づくり
- ・茨城県学校教育指導方針における高校外国語教育の重点を動画・学校訪問・研修等で周知

▶ 外国語重点 4技能5領域の総合的な育成と発信力の更なる育成

努力事項	具現化のための取組
1 学習到達目標の設定による指導計画の改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習到達目標を見通した指導計画</li> <li>○ CAN-DOリスト等の学習到達目標の設定及び活用</li> <li>○ 中学校との円滑な接続を図った指導の工夫</li> <li>○ 政府を踏んだ中・高連携の事業</li> </ul>
2 コミュニケーション能力を育成する指導方法の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り、発表〕、書くこと）を総合的・有機的に関連させた指導の充実</li> <li>・「英語で行う授業」（生徒の英語による言語活動が中心となる授業）の実践</li> <li>・「話すこと」「読むこと」を通じて知識等を得る活動と、「話すこと」「やり取り」「書くこと」「発表」「書くこと」を通じて発信する活動の統合</li> <li>・語句や文法事項の指導は、4技能の総合的な言語活動と一体的に実施</li> <li>○ ICTの効果的な活用</li> <li>・英辞や英訳辞書の活用等により、言語活動中心の授業展開を実施</li> <li>・スピーキングテスト等のパフォーマンステストへの活用</li> <li>・あるテーマに合わせた「聞く」「読む」ための素材を収集する等、探究的な活動への活用</li> </ul>
3 観点別評価の更なる推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導に生かす観点別評価の工夫改善</li> <li>・年間指導計画に位置付けた目標及び評価規準の設定</li> <li>・指導と評価の一体化による授業改善や生徒の学習意欲の向上</li> <li>・「話すこと」「やり取り」「話すこと〔発表〕」や「書くこと」における評価の工夫改善</li> </ul>

- ・生徒の英語力（発信力）を多角的に評価する指標の作成
- ①①②授業改善推進プロジェクト
  - ・生徒による授業評価を踏まえて、各校で組織的に授業改善 / 好事例の学校間共有
- ①①②JET-ALTを授業内外で積極的に活用
  - ・ALT活用協議会を通して好事例（英語で他教科指導、パフォーマンステスト補助、ディベート指導 等）の横展開
  - ・ALT経験者をネイティブ教諭に登用
- ①①英語での発信力強化に向けた事業の実施
  - ・茨城県国連グローバルセミナー、英語プレゼンテーションフォーラム、英語ディベート大会、留学支援 等
- ②英語担当教員の英語力向上
  - ・受験機会及び研修機会の提供